

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立山王小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- 児童の実態や個人に合わせたプリントなどを使いながら指導をすることができたため、少人数指導を行うことが効果的であった。
- 算数的活動の中で、理科や社会で学習したデータを活用することで、日常生活と算数との関わりにも目を向けさせ、関心を高めることができた。
- 図形に関する問題で、図形の構成要素や性質を考えられる作業を授業に積極的に取り入れたことで、「図形」の領域の確かな理解につながった。また、ICTを活用して、視覚的に理解できるようにすることができた。
- 授業の中で友達と交流して考えを広げていく場を授業中に積極的に取り入れたことで、思考力が高まった。

(2) 課題

- 文章題から聞かれていることを正しく読み取り、式や計算を考えて解くことや、表やグラフから読み取ったことを記述で答える問題に課題が見られる。
- 各学年全体的に目標値を大きく上回っているが、第4学年「分数」、第6学年「合同な図形の作図」問題の正答率が低く、それぞれ課題が見られた。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	○「知識・技能」 目標値よりも14pt、区の平均正答率よりも10pt以上上回っている。 ○「思考・判断・表現」 目標値よりも13pt、区の平均正答率よりも10pt以上上回っている。しかし、観点別正答率では一番低い結果になっているため、この点が課題であると考えられる。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値よりも15pt、区の平均正答率よりも11pt以上上回っている。		
第5学年	○観点別では、どの観点も10pt以上目標値、区平均、全国平均を上回った。	○「知識・技能」 目標値よりも12pt、全国と区の平均正答率よりも11pt以上上回って	

	○領域別では、どの領域も目標値、区平均、全国平均を上回った。 ○問題の内容別では、どの問題も目標値、区平均、全国平均を上回った。特に「わり算・計算のきまり」や「小数」「分数」「面積」「変わり方調べ」「簡単な場合についての割合」については、15pt 近く上回った。	いる。 ○「思考・判断・表現」 目標値の正答率を 20pt 以上回っており、良好と言える。しかし、観点別正答率では一番低い結果になっているため、この点が課題であると考えられる。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも上回っている。 (第4学年時)	
第6学年	○「知識・技能」 目標値、区・全国の平均正答率を上回り、良好と言える。特に目標値と比べると 10pt 以上上回っている項目が多くあり、知識・技能の力はとても高いといえる。 ○「思考・判断・表現」 目標値の正答率から 20pt 以上、上回っているものも多くあり、良好と言える。また、区や全国の平均正答率と比較しても、10pt 上、上回っていた。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも大きく上回っているため、概ね良好と言える。一方で、目標値程度の問題もあるため、課題とも言える。	○「知識・技能」 目標値、区・全国の平均正答率を上回り、良好と言える。特に目標値と比べると 10pt 以上上回っているため、知識・技能の力はとても高いといえる。 ○「思考・判断・表現」 目標値の正答率から 18pt 以上、上回っており、良好と言える。また、区や全国の平均正答率と比較しても、10pt 上、上回っていた。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも大きく上回っているため、概ね良好と言える。 (第5学年時)	○「知識・技能」 目標値、区・全国の平均正答率を上回り、とても良好と言える。全体的な平均正答率は、目標値より 13pt 以上上回っているため、知識・技能の力はとても高いといえる。 ○「思考・判断・表現」 全ての問題において、目標値の正答率から 10pt 以上、上回っており、とても良好と言える。 ○「主体的に学習に取り組む態度」 目標値、全国・区平均正答率よりも上回っているため、概ね良好と言える。しかし、問題の中で唯一、平均正答率の目標値が 5pt 低い項目があったため、さらなる向上が求められると考える。 (第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○すべてにおいて目標値、全国正答率を上回っている。 ○「数と計算」の領域では、計算問題を正確に解ける児童が多い。繰り下がりが百の位、十の位と2回繰り下がる問題では、計算のミスが目立つ。 ○「図形」の領域では、「辺・面・頂点」などの名前を覚えていない児童もいる。 ○「測定」の領域では、時間の計算を正確に答えるのが難しい。特に、「〇〇分前/〇〇分後は何時何分でしょう。」等の問題では、苦手意識が見られる。	○すべてにおいて目標値、全国正答率を上回っている。 ○習熟した学習内容を生かして問題を解き、考えを交流する児童が多い。考えを伝えることには前向きである。 ○「九九を広げよう」や「わり算」、「暗算」の単元では、式や図、数を分解した解き方等を活用して考えを書いていた。	○すべてにおいて目標値、全国正答率を上回っている。 ○授業中、すすんで問題を解き、意欲的に発言する児童が多い。 ○問題文をよく読み、理解して解こうとしている。 ○一つの考え方だけでなく、別の考え方を考えようとする姿が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ほとんどの領域で目標値を上回っているため、概ね良好といえるが、「合同な図形」では 0.6pt、「円グラフや帯グラフ・平均」では 1.8pt 目標値を下回っており、課題と考えられる。	○目標値を 10pt 以上上回っており、区・全国の平均正答率よりも 10pt 以上上回っている。また、領域別にみても、20pt 程度上回っている観点もあり、他の観点と比較しても概ね良好と考えられる。	○目標値よりも 10pt 以上上回っている。また、「少数の計算」や「割合」の領域では 10～20pt 以上上回っており、概ね良好と思われる。解答形式が記述になると pt が 0.8pt 下回っているため、課題と考えられる。

3 授業改善のpt（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ブロック等具体物を操作することで、数の分解・合成の理解を深める。それを生かして加法計算や減法計算ができるようにする。 ○計算技能の習熟には個人差が出やすいので、確実に定着させるために、定期的に習熟することで定着を図る。	○文章問題では、立式のための手立てとなる数や言葉に着目させるよう、繰り返し指導していく。 ○問いかけ型の発問を増やし、「なぜ」「どうして」と思考する習慣をもたせ、理由を表現する活動をする。 ○デジタル教科書や書画カメラ、タブレット端末等の ICT 機器を使い、視覚的な理解ができるような授業を展開する。	○加法、減法、数の分解・合成などについて、他教科や生活の中で生かせる場面を探し、適宜応用させていく。 ○計算カードの反復練習やタブレットのドリルコンテンツを用いた習熟に積極的に取り組み、児童が楽しさを感じながら学べるようにする。 ○具体物や図、絵などを用いたり、手遊びなどを取り入れたりして数の構成に興味をもって活動に取り組もうとする態度を養う。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○大きい数、小数、分数等の数の理解に関して、計算や問題を解くだけでなく、記数法や単位に関する理解を深める。 ○「数と計算」の領域では、答えを見直すように指導する。また、計算の順番を説明させることで、計算のミスをなくすようにさせる。 ○「図形」の領域では、模型や道具等の具体物に触れることで、習熟が深まるようにする。ICTを活用して、視覚的に理解をできるようにする。 ○「測定」の領域では、ICTを活用して時間の計算の習熟を図る。	○大きい数、小数、分数等の数の理解に関して、数の仕組みや表し方に着目し、様々な表し方をして説明すること等を通して、統合的に理解を深める。 ○引き続き、立式の理由や計算の仕方について説明し合うことを通して、表現する力を育てる。 ○文章題をよく読んで、聞かれていることを正しく読み取り、それに合った式や計算を考え、解くようにする。数量関係を表す図を基にさせて考えさせる。 ○問題の解き方について、自分の考えを友達に伝える活動を数多く取り入れる。また、伝え方のモデルを示す。	○友達の考えや自分の考えを書く活動を通して、思考を深めたり、表現力の向上につなげたりする。 ○問題文の「分かっていること」「求めること」に線を引き、問題を把握させる。 ○既習事項を確認することで、どのように解いたらよいか見通しをもたせる。 ○身に付けた内容を生活の中で、どのように生かせるか児童に考えさせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○図形に関する問題では、公式を覚えることはできても、図形に合わせて活用することが苦手である。三角形の面積をもとにして他の図形の公式を導き出すような活動や、身の回りにある円の円周の長さを求める活動を積極的に取り入れ、公式の表す意味や活用方法の理解を確かなものにする。 ○「図形」の領域では、作図を行う場面を多く取り入れ、技能が定着するように工夫する。 ○作図の際には ICT 機器を活用したり、何度も練習をしたりすることによって技能が定着できるようにする。 ○「タブドリ Live!」を使いながら、繰り返し問題を解決していけるようにする。	○「数計」の領域では、自らの考えを記述で表し、交流する活動を積極的に取り入れる。 ○「図形」の領域では、円の面積や角柱、円柱の体積の求め方を、自分なりに工夫し、図や文章で考えを書き表す作業を授業で取り入れる。 ○計算の仕方を、言葉や式、図などを使って説明する活動を計画的に取り入れ、根拠をもとに計算したり、説明したりできるようにする。	○授業では、児童の実態や個人差に合わせ、「タブドリ Live!」に取り組む時間を確保することで、自己の課題と向き合い、問題を解決していけるようにする。 ○学習のまとめとして、問題を作り、友達と互いに解きあう場を設定する。既習事項を活用することや、問題解決の楽しさを感じることができるようになる。 ○算数的活動を取り入れることで、日常生活と算数とのかわりを感じられるようにし、学習への意欲を高める。 ○友達の考えや自分の考えを書く活動を通して、思考を深めたり、表現力の向上につなげたりする。